

## はじめに

国土交通省と宮崎県は、宮崎海岸の侵食対策を、行政・市民・専門家が三者一体となって進めています。

これまで、地形測量や環境調査等を毎年行い、まず、行政(事業主体)が分析して市民談義所にて意見交換し、これを踏まえて再度行政が評価素案をまとめ、効果検証分科会や委員会にはかって、また市民談義所に報告するという流れでやってきました。

令和2年度は、コロナ禍の影響を受け一堂に会する対面式での市民談義所を開催できないなど、大きな制約の中で進めることになりました。その中でも、市民、事業主体、専門家が常に連携し、意見交換を行いながら事業を進めていくというスタンスを崩さず、アンケート調査やよろず相談所などにより、市民の方から意見をしっかりと聴取するよう努めてきました。

この報告は、その聴取した意見を踏まえて効果検証分科会及び委員会で議論した一連の結果を要約版としてまとめたものです。通常なら市民談義所を開催して報告するところですが、2月時点で新型コロナウイルスの感染状況は予断を許さない状況であるため、書面にてご報告します。

報告内容の詳細は、会議資料、議事録などをホームページに掲載しておりますので、そちらも合わせてご覧ください。(http://www.qsr.mlit.go.jp/miyazaki/sskondan/documents/index.html)

市民談義所は、希望者に資料を配付し、アンケートで意見を募集する形式で実施しました

## 1. 配布資料とアンケート

配布資料には、昨年度までと同様に前年に実施した海象(波浪)、地形、環境、利用調査の分析結果のポイント、その結果を踏まえた「各対策の評価のまとめ」、今年度の工事予定などを掲載しました。アンケートは、それら事業主体がまとめた分析結果、各対策の効果・課題・今後の方向性に対して「そう思う」「そう思わない」およびその理由など、意見を求めました。

### ■各対策の評価のまとめ

#### (2) 各対策の評価のまとめ

##### ■対策の効果

- 各対策ともに一定の効果を発揮していると考えられる
- 養 浜: 宮崎海岸全体で侵食進行の抑制効果が見られた。
- 突 堤: 突堤設置範囲で堆積傾向が見られた。
- 埋設護岸: 浜崖の顕著な後退を防ぎ、背後地を守ることができた。

##### ■対策の課題

- 目標浜幅50mを確保するだけの回復には至っていないことから、更なる養浜の推進が必要である。
- 突堤設置区間周辺の砂浜を回復するためには、突堤の延伸に加え、砂の供給が必要である。
- サンドバックにより背後砂丘が守られているため、サンドバックを健全に維持していくことが課題である。

##### ■今後の方向性

- 引き続き、測量等により各対策の効果・影響の把握や施設の機能維持に努める。
- 更なる養浜の推進のため、サンドバイパス・サンドバックパスの実施に向けて検討を進める。
- 関係機関と協力体制を作って突堤延伸を推進する。
- 事業進捗により砂浜が安定するまでの期間、埋設護岸の適正な維持・管理に努める。

### ■アンケート

#### 令和2年度宮崎海岸の侵食対策の効果・影響に関する意見提出用紙

■主に宮崎海岸の侵食対策事業について、ご意見や感じていることをお聞かせください

※ページ番号(p13)は、2期目の令和2年度宮崎海岸の侵食対策の効果・影響に関する資料の該当ページ番号です

対策	各対策の評価(p13)		左記評価に対して ※( )内を記入
	効果	課題と今後の方向性	
養浜	宮崎海岸全体で侵食進行の抑制効果が見られた。	目標浜幅50mを確保するだけの回復には至っていないことから、更なる養浜の推進が必要である。	そう思う ( ) そう思わない ( ) わからない ( )
突堤	突堤設置区間周辺の砂浜を回復するためには、突堤の延伸に加え、砂の供給が必要である。		そう思う ( ) そう思わない ( ) わからない ( )
埋設護岸	サンドバックにより背後砂丘が守られているため、サンドバックを健全に維持していくことが課題である。		そう思う ( ) そう思わない ( ) わからない ( )

### ■配布資料

※資料配布期間: 令和2年10月21日~10月30日

令和2年度宮崎海岸の侵食対策の効果・影響に関する資料



国土交通省 宮崎河川国道事務所  
宮崎県

## 2. 意見聴取(アンケート)結果

21名の市民から資料配布の申し込みを頂き、14名にアンケートの回答を頂きました。頂いた意見を参考にして各対策の年次評価(素案)を作成し、効果検証分科会にて評価(案)としてまとめました。その概要を次項に紹介します。協力頂いた皆様にはありがとうございます。

なお、頂いたすべての意見は市民連携コーディネータの吉武先生、高田先生に集約して頂きました。



市民連携コーディネータ  
高田知紀先生  
(兵庫県立大学 准教授)

- 『市民からの意見をみると、事務局が示した対策の評価と市民の認識とに大きな差異は認められなかった。』
- 『一方、養浜の効果が現時点では限定的であり、突堤延伸を早期に実現するよう求める声が多かった。』
- 『ポジティブな意見として、台風時にサンドバックによって浜崖が守られていると感じるといった意見も多かった。』
- 『その他、突堤以外の新たな対策を導入する提案や、抜本的な総合土砂管理の実現についての意見もあった。』
- 『今後宮崎海岸の将来を考える上では、国土交通省や宮崎県だけでなく、宮崎市、多様な市民や民間企業などが連携・協働するための場としくみをつくっていくことが必要と考える。』

## 皆さんの意見を踏まえ、各対策の年次評価(案)を効果検証分科会でまとめました

### 1. 効果検証分科会の開催

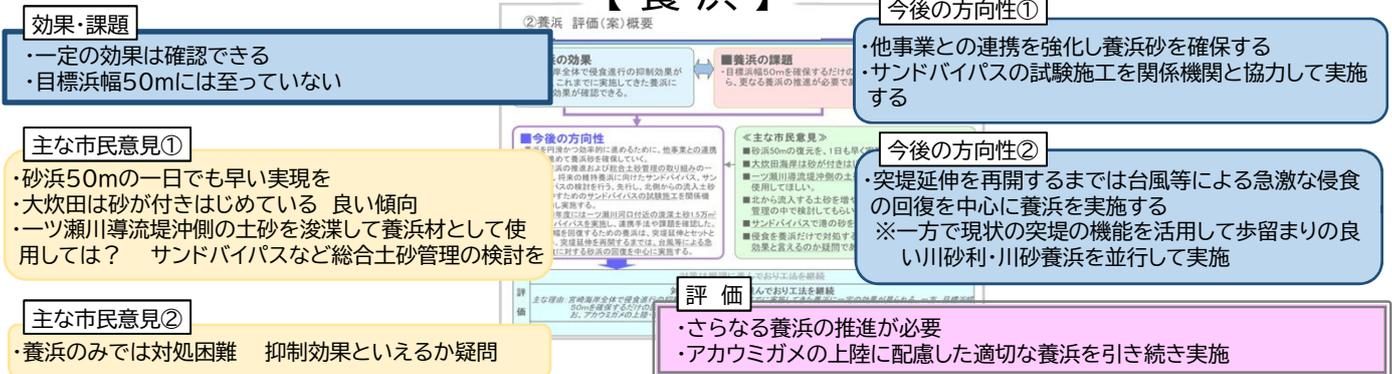
聴取した意見を踏まえて作成した年次評価(素案)について、海岸工学や環境、生物等の専門家で構成する分科会から意見を求め、案としてまとめました。分科会は、市民談義所と同様に一堂に会する方法はとらず、webを活用する等して各委員へ個別に説明し、意見を求める方法で開催しました。



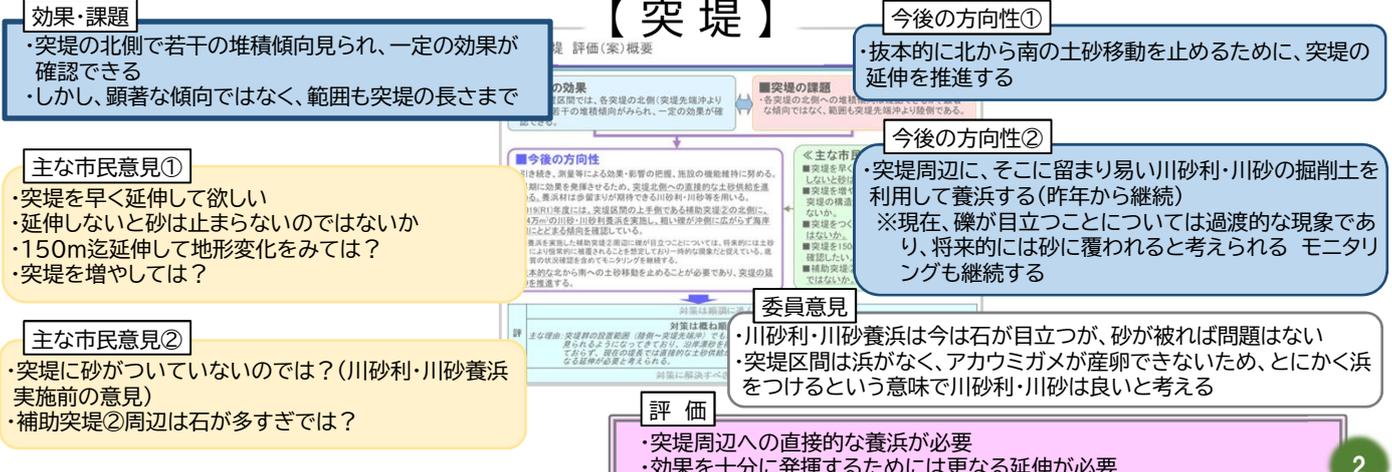
■効果検証分科会の様子

### 2. 年次評価(案)の概要

#### 【養浜】



#### 【突堤】



## 【埋設護岸】

### 効果・課題

- ・R1年は台風8号, 10号等による高波から浜崖の顕著な後退を防いだ
- ・著しい損傷もなかった
- ・台風後のサンドバックの露出や軽微な損傷の対応が必要

### 主な市民意見

- ・埋設護岸によって浜崖は守られていると思う
- ・植生の回復は効果のひとつ
- ・アカウミガメはサンドバックの上で産卵している
- ・サンドバックの露出はアカウミガメの産卵に支障
- ・露出後の早急な復旧が必要

### 評価

- ・浜崖後退を防ぐことができた
- ・養浜、突堤により砂浜回復を推進 それまでの適正な維持が必要

### 今後の方向性

- ・今後も巡視や台風後の緊急対応等、機能維持に努める
- ・学識者や地元環境保護団体と協力する

## 【波向き、波高等の前提条件】

### 主な市民意見

- ・台風の大形化による波浪が懸念

### 今後の方向性

- ・現時点では前提条件の見直しが必要となる現象は見られていないが、今後もデータを注視していく
- ・全国の動きとして令和2年7月に「気候変動を踏まえた海岸保全のあり方(提言)」が示されており、動向を注視する

## 3. 分科会長のまとめ



効果検証分科会長  
須田有輔先生  
(水産大学校 教授)

『「養浜」、「突堤」および「埋設護岸(サンドバック)」についても特段大きな問題点は見当たらず、それぞれの工事を継続することが妥当であると評価した。』

『突堤の延伸が滞っていることを懸念する声があるが、3つの工法のどれに不足があっても所期の目標達成が難しいことを、市民も含め関係者すべてが改めて認識する必要がある。』

『本事業は概ね市民からの理解が得られていると思われるが、事業者には、技術上の特性、限界、問題点等について、市民がより一層理解を深められるような工夫を今後も不断にとっていただきたい。』

委員会では、効果検証分科会の評価結果が了承され、突堤延伸に関する方向性を確認・共有しました

## 1. 宮崎海岸侵食対策検討委員会の開催

委員会のメンバーは、海岸に関する工学や環境、生物等の専門家、行政、住民代表、サーフィン利用者、漁業者等の宮崎海岸に深く関わる代表者で構成されており、近年は毎年1回開催し、対策の効果の検証・意見交換をしています。

今回は広い会場を準備して十分な離隔をとるなど、徹底したコロナ感染対策をして令和2年12月18日に開催しました。

### <主な議事>

- ・効果検証分科会の検討結果(年次評価(案))について
- ・現在実施中の工事について
- ・漁業者との話し合いの状況について



## 2. 会議概要

### ■会議の様子



### 効果検証分科会の検討結果(年次評価(案))について

委員からも市民の方と同様に「今年の台風で松林まで削れたところがある。気候変動による影響では?」、「養浜について、砂利が特定の箇所に集中しているように感じる」などの意見がありました。それらの意見も踏まえて検討していると答えた上で、分科会でまとめた年次評価(案)について(前項の内容を)事務局から説明しました。

事務局の後、市民連携コーディネータの高田先生、吉武先生から「市民からの意見についての報告」、分科会長の須田先生から「会長からの結果報告」がありました。

## 現在実施中の工事について

### 事務局からの説明

「3つの対策は一定の効果をおげていると言えますが、さらなる効果をあげるためには突堤の延伸の推進が必要です」

### 事務局からの説明

「それまでの間、少しでも早く今の突堤で効果を上げるべく、突堤周辺に歩留まりの良い川砂利・川砂養浜を行うことを前回の委員会を確認しました。昨年度から本格的に実施し効果を確認しており、今年度も継続する予定です」

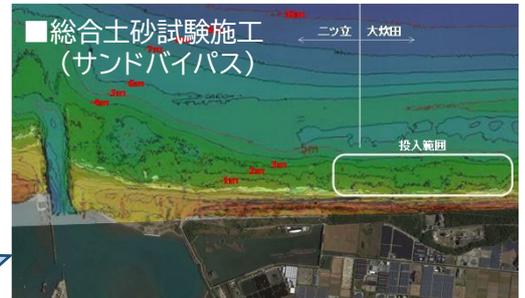
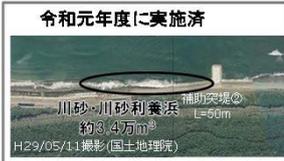
### 委員意見

「今回の効果報告は速報なので次回、もう少し詳しい分析結果をお願いします」

### 委員意見

「住吉海岸の測量結果を細分して分析してはどうか」

## ■川砂利・川砂養浜の概要



### 事務局からの説明

「抜本的に北からの土砂量を増やす取り組みの一環として、宮崎県と連携したサンドバイパスの試験施工も継続します」

## 漁業者との話し合いの状況について

### 事務局からの説明

「前回委員会(R元.10.18)にて、突堤延伸に対して一部の漁業者から理解を得られていない状況を報告し、国・県・市が協力して漁業者としっかりと話し合うことになっていました」

### 事務局からの説明

「関係する各漁協と話し合いをしましたが、明確に意思表示があっている1漁協と主に話し合っています。漁業操業に支障があるということで、事業への理解を求めると同時に何か解決策はないか、補償による解決の可能性も含めて話し合っています」

### 漁業者との話し合いの状況(経緯)

漁協名	年月日	主な発言(各漁協のスタンス)
1	4/25	「これ以上の突堤の延伸は、漁の操業に支障がある。」
2	4/25	「離岸堤事業に賛同してはいるが、突堤の延伸は賛同していない。」
3	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
4	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
5	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
6	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
7	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
8	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
9	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
10	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
11	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
12	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
13	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
14	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
15	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
16	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
17	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
18	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
19	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」
20	4/25	「突堤が支障というより早く事業を進めて欲しい。早く砂の動きを止めたい。」

### 委員意見

「突堤の延伸は操業に影響があり、そもそもこれ以上伸ばして欲しくない。補償ありきではない」

### 委員意見

「砂を止める今の突堤の考え方に反対ということではない。水を通す透過型の突堤が良いと思う」「離岸堤が良いと前から言っている。航空写真を見ても砂が付いている」

### 委員意見

「離岸堤はある条件下では効果を発揮するが、宮崎海岸の場合北側からの砂が少ないので、離岸堤では砂は止められない。その条件下で突堤になったことを理解して欲しい」

## 3. 委員長の意見・まとめ



委員長  
村上啓介先生  
(宮崎大学 教授)

「計画策定段階で、離岸堤も含め突堤、ヘッドランドなど様々な工法について、海岸利用者、背後住民、漁業者などから様々な意見を聞いた上で、養浜、突堤、埋設護岸の組合せを選択した経緯がある。また、事業の進め方として効果や影響を評価しながら進めることも決めており、今まさに、突堤を延伸しつつ影響を見て、その都度意見を聞きながら進めていることの再認識が必要と考える。」  
「突堤延伸の再開に向けて、現在実施している漁業者との話し合いを継続して欲しい。」

### 《 結論 》

効果検証分科会の検討結果(年次評価(案))が了承されるとともに、突堤延伸に関する漁業者との話し合いについて、今後も話し合いを継続することを委員会として意思確認しました。

第19回宮崎海岸侵食対策検討委員会での協議事項

■突堤の延伸について、影響を懸念する漁業者との相互理解に向けて話し合いを継続する。

## 最後に

今回の委員会や市民の皆さまの意見を参考にして、来年も事業を推進していきます。未だコロナ禍が収束せず、宮崎県内でも独自の感染拡大緊急警報を2月時点で発令中の状況ですが、来年も「宮崎海岸トライアングル」、「宮崎海岸ステップアップサイクル」の宮崎海岸事業の進め方をしっかりとやっていきます。皆さまのご協力をお願いします。